

神奈川県鉄道輸送力増強促進会議 平成29年度 要望・回答

東日本旅客鉄道 根岸線

I 輸送力増強

1 輸送計画の改善

番号	要望事項	要望内容	回答
(1)	桜木町駅や磯子駅折返しとなっている列車の大船駅までの延長運転	利用者の利便性の向上を図るため、桜木町駅や磯子駅折返しとなっている列車を、大船駅まで延長運転されるよう要望いたします。	現在、桜木町駅、磯子駅で折返しをしている列車の大船駅までの延長運転につきましては、お客さまのご利用状況を見極めつつ検討してまいります。

II 利便性向上

1 駅施設等の整備

番号	要望事項	要望内容	回答
(1)	関内駅の利用者の安全性確保、利便性向上を図るための駅施設等の整備	JR関内駅は、市庁舎や横浜スタジアムの最寄駅であるとともに、横浜都心部の玄関口の1つとして、一日の乗降客数が約11万人(平成28年度実績)と多くの方々が利用されています。 現在、北口の駅施設改良について、JR関内駅北口整備協議会を設立し、貴社と連携しながら事業を進めていますが、着実な事業推進に向け、引き続きの取組みをお願いいたします。 平成32年6月には、市庁舎が関内駅前から移転しますが、横浜文化体育館の再整備や現市庁舎街区の活用など、新たなまちづくりの検討を進めていますので、ご協力をお願いいたします。	関内駅北口のバリアフリー施設等の整備につきましては、JR関内駅北口整備協議会が立ち上がり、平成26年に着手し、平成29年の4月に使用開始をいたしました。また来年度は、ホームの拡幅工事に着工し、更なる安全確保に向け推進していきます。 また、市庁舎移転後の新たなまちづくりについては駅舎改良等を含め、関係自治体と連携し検討を進めてまいりたいと考えております。
(2)	石川町駅元町口の高齢者、障害者等の安全確保を図るための駅施設等の整備	駅舎改良については平成27年度から事業化されましたが、平成29年度内の南行ホームエレベーターの供用及び平成30年度内の北行ホームエレベーターの供用開始に向け、引き続き着実な事業推進の取組みをお願いいたします。 また、この駅舎改良を契機にデザイン性の高い駅舎にするなど、観光で訪れた方々や地域の皆様にも将来に渡って愛される駅となるよう、鉄道事業者としてのご協力をお願いいたします。	関係自治体との協議が整い、平成28年度末に工事を着工し、平成29年度末に南行ホームのエレベーターの使用開始を予定し、平成30年度末に北行ホームのエレベーター及び多機能トイレの供用開始を目指しております。 また、平成28年度にホーム壁画の改修・駅美化等を行ってまいりました。今後も引き続き多くのお客さまに愛される駅を目指し自治体と連携し取り組んでまいります。

(3)	新杉田駅の混雑対策	<p>新杉田駅は、一日あたりの乗降客数が約7万7千人(平成28年度実績)と、利用者が多い駅です。</p> <p>駅構内及び高架下に設置されているシーサイドライン・京急杉田駅方面との連絡通路は朝夕ラッシュ時には乗降客であふれ、著しく混雑している状況が見受けられます。</p> <p>については、利用者の安全性の確保の点からも、適切な混雑対策を講じるよう要望いたします。</p>	<p>駅構内及び連絡通路の混雑解消につきましては、お客さまの流動を把握すると共に、関係者や自治体等と連携し改善の必要性について検討してまいります。</p>
(4)	桜木町駅の利用者の安全性確保、利便性向上を図るための新改札口等の整備	<p>JR桜木町駅は、一日の乗降客数が約14万人(平成28年度実績)と多くの方々が生活用しており、今後、北仲通地区の計画開発が進むことで、来訪者、就業者等の相当な増加が見込まれることから、利用者の安全性確保や利便性向上を図ることが不可欠です。</p> <p>このようなことから、駅南端部への新改札口設置について、貴社と連携して事業を進めていますが、平成32年度の供用に向けて引き続き着実な事業推進をお願いいたします。</p> <p>また、新改札口は、野毛・北仲通・馬車道地区の新たな玄関口となることから、高齢者、障害者、乳幼児連れの保護者等に配慮した施設整備を行うとともに、デザイン性の高い駅舎にするなど、観光で訪れた方々や地域の皆さまにも将来に渡って愛される駅となるよう鉄道事業者としてのご協力をお願いいたします。</p>	<p>弊社としても北仲通地区の開発に伴ってJR桜木町駅利用者の増加が見込まれることは予想しており、横浜市と協議を進めてまいりました。</p> <p>この度、横浜市との協議が整い工事に着手することとなりました。新改札口の供用については平成32年度を目指して、今後本格的に事業を推進してまいります。</p> <p>桜木町駅は初代横浜駅ということもあり、当時の面影を採り入れたデザインにするなど、地域の皆さまにも愛される駅とすべく、複合ビルを含めて検討を行っているところです。</p>
(5)	関内駅、山手駅、大船駅への可動式ホーム柵の設置	<p>横浜市では利用者数が1日10万人以上の駅及び視覚障害者利用施設最寄駅を対象に可動式ホーム柵の整備を促進することとし、整備費用の一部を鉄道事業者へ補助しています。横浜駅、桜木町駅、東神奈川駅については、御社が可動式ホーム柵の設置を計画していることに感謝します。その他の駅についても、旅客の安全確保を図る観点から、早期に導入されるよう要望いたします。</p>	<p>JR東日本は、山手線や京浜東北・根岸線等へのホームドア導入を積極的に推進しております。今後は駅ホームの更なる安全性向上に向け、東京圏におけるホームドアの整備促進を図ります。具体的には東京圏在来線の主要路線について、乗降10万人駅等を優先し、2032年度末頃までの整備を目指して行きます。今後も国や自治体からの協力をいただき、事業者と三者一体となって、ホームドア整備を推進いたします。また、ホームドアの形式につきましても各駅の特徴を考慮しながら検討してまいりますので、併せて自治体の協力をお願いいたします。</p>